

「あなたの当たり前は、誰かの魅力かもしれない…」

# 大田原通信

大田原市移住・定住交流サロン通信

地元の良さ、再認識



大田原に住んでいる私たちが「当たり前」と思っていること…。それが移住してきた人にとっては「魅力」に感じられています。この通信では、そんな大田原の魅力について、毎月1回お伝えしています。

## 多世代の遊び場づくり

—ミーパル学童クラブ—

なかお しょうご  
中尾 翔吾さん

今回は、大田原地区にある「ミーパル学童クラブ」の中尾さんにお話を伺いました。中尾さんは、20代という若さで学童クラブやフリースペースの運営をされています。そこに至った経緯ややりがい、そして、今後目指すものについてお話を伺いました。



中尾翔吾さん

### 先生になりたい

中尾さんー「小学生の頃、私がお世話になった先生に憧れて、教職に就きたいと思うようになりました。もともと年下の子の面倒を見たり、教えたりするのが好きで、自然と先生という職業に興味を持つようになったんです。」

### 学童との出会い

中尾さんー「実は、私自身も小学生の頃に学童を利用していました。その経験もあり、高校生の時に学童でボランティアをする機会がありました。その中で、こどもたちの自主性や主体性を育むことの大切さに気付きました。むしろ私には教職よりも学童が向いているのではないかと感じたんです。高校を卒業した後は、学童で働くことになりました。実際に現場でこどもたちと関わる中で、学童の魅力や可能性をより深く感じるようになりました。」



やりたい事を話し合う「子ども会議」



仲間と共に立ち上げたミーパル

### 学童設立の道のり

中尾さんー「自分の理想とする学童をつくりたいと思い、21歳の時に仲間と共に学童を立ち上げました。書類の作成や物件探しなど、やるべきことが多く、大変な道のりでした。でも、こういう場所をつくりたいという強い思いがあったからこそ、やり遂げられたんだと思います。」

## やりがいを感じる瞬間

中尾さんー「こどもたちは一人ひとり個性が違うので、それぞれに合わせた対応が必要です。その対応がうまくハマった時、こどもたちとの信頼関係が深まるのを感じます。卒業したこどもたちが遊びに来てくれるのも、すごく嬉しいことですね。特に、ボランティアに行っていた学童にいたこどもが高校生となった今、アルバイトとして手伝ってくれているのは感慨深いです。『手伝いたい』とか『遊びに来たい』と思ってもらえることが、学童をやっていてよかったと実感する瞬間です。」



夏祭りで、こどもたちとヨーヨー釣りをする中尾さん

## これから目指すもの

中尾さんー「今は市の補助金を受けながら学童の運営をしていますが、今後は補助金に頼らず、完全に民間で運営できる学童を目指したいと考えています。誰でも通えるような環境をつくり、こどもたちが自主性、社会性、創造力を育める場にしていきたいです。また、学童だけでなく、フリースペースの運営も行っています。遊びを通じて多世代交流の場をつくり、誰もが安心して過ごせる居場所を提供していきたいと思っています。」

## ミープル学童クラブ

栃木県大田原市新富町1-3-26  
吉田ビル2F  
050-8885-6290



公式LINE



ホームページ



取材した方に聞きました  
「あなたの好きな大田原」

## 大田原日曜朝市



開催日時  
毎月第4日曜  
8時～13時

場所  
山の手整骨院駐車場  
栃木県大田原市山の手1-6-2



朝市ではDJをやり  
盛り上げています！



## 大田原の魅力発信中



Instagramを  
チェック！

## お問合せ

大田原市の移住相談窓口

大田原市移住・定住交流サロン

大田原市本町1-3-1 大田原市役所A別館2階  
Tel : 0287-23-8794 (平日/9:00～17:00)

Mail : salon@ohtawara-ijyu.jp



ホームページ



Facebook



Instagram

大田原の暮らし、地域情報など発信中！

担当課：大田原市役所 総合政策部 政策推進課